

2014年3月期 決算説明会

株式会社アイネット

2014年5月20日

東証1部
証券コード 9600

次第	プレゼンター	所要時間
はじめに	経理部長 内田 直克	約15分
2014年3月期 業績概要		
当社グループの 事業方針・強み	代表取締役社長 梶本 繁昌	約20分
業界環境 当社グループの状況		
通期業績予想		
質疑応答		



1. はじめに（会社概要）

2. 2014年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの状況

5. 2015年3月期業績予想

inet 会社概要(2014年4月1日現在)

- 商号 株式会社アイネット
- 設立 1971年4月22日
- 本社 横浜市西区みなとみらい3-3-1
- 資本金 3,203百万円
- 代表者
代表取締役会長 池田 典義
代表取締役社長 梶本 繁昌



1st Data Center

- 子会社
株式会社ISTソフトウェア
株式会社アイネット・データサービス
- 社員数 1,372名(連結)
919名(単独)

- 事業所／支店／データセンター
東京事業所 札幌支店、仙台支店、中部支店
大阪支店、中四国支店、福岡支店
第1データセンター、第2データセンター



2nd Data Center



1. はじめに（会社概要）

2. 2014年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの状況

5. 2015年3月期業績予想

inet 2014年3月期業績概要(連結)

(単位:百万円・%)

	2013年3月期		2014年3月期		前年同期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	21,587	100.0	22,528	100.0	+940
売上原価	16,358	75.8	17,117	76.0	+758
売上総利益	5,228	24.2	5,411	24.0	+182
販管費	3,690	17.1	3,747	16.6	+56
営業利益	1,538	7.1	1,664	7.4	+125
経常利益	1,487	6.9	1,561	6.9	+73
当期純利益	885	4.1	901	4.0	+16
1株当たり利益(円)	67.9	—	63.7	—	① △4.3

①第2四半期の自己株式売出しによる影響

inet サービス区分別販売実績・営業利益(連結)

(単位:百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
					金額	金額
情報処理サービス	8,486	826	8,783	806	① +296	△21
(営業利益率)		9.7%		9.2%	—	△0.5%
システム開発サービス	12,291	668	13,063	820	② +771	+151
(営業利益率)		5.4%		6.3%	—	+0.9%
システム機器販売	808	42	681	38	△127	△5
(営業利益率)		5.3%		5.6%	—	+0.3%
合計	21,587	1,538	22,528	1,664	+940	+125
(営業利益率)	—	7.1%	—	7.4%	—	+0.3%

(主な要因)

- ①売上はデータセンターサービスおよびクラウドサービスが堅調に推移
データセンター・クラウドサービスの先行投資によるコスト増で利益は前年並み
- ②金融業向けシステム導入、システム更新需要が回復したことにより増収増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

(単位:百万円・%)

	2013年3月期末		2014年3月期末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	7,566	33.7	7,645	31.2	+78
固定資産	14,892	66.3	16,869	68.8	① +1,976
繰延資産	—	—	—	—	—
資産合計	22,459	100.0	24,514	100.0	+2,055
流動負債	6,353	28.3	5,734	23.4	△619
固定負債	7,250	32.3	8,208	33.5	+957
負債合計	13,604	60.6	13,942	56.9	② +338
純資産	8,854	39.4	10,571	43.1	③ +1,717
負債・純資産合計	22,459	100.0	24,514	100.0	+2,055

(主な要因)

①DC拡充等で有形固定資産2,125百万円増加

 ②DC設備投資のため有利子負債1,807百万円増加(短期663百万円/長期1,143百万円)
 一方で未払法人税233百万円、未払金473百万円、仮受金442百万円が減少

③利益剰余金の588百万円増加と自己株式処分(売出し・消却)による1,142百万円増加

inet キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前年同期比
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,890	① 1,171	△719
投資活動によるキャッシュ・フロー	△899	② △3,741	△2,842
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,073	③ 2,278	+3,351
現金及び現金同等物の増減額	△81	△291	△210
現金及び現金同等物の期首残高	2,556	2,474	+81
現金及び現金同等物の期末残高	2,474	2,183	△291

(主な要因)

①利益および償却等による内部留保金+2,892百万円【増加】

売掛債権の増加△247百万円、法人税等の支払△843百万円【減少】

②固定資産(データセンター拡充等)の取得 △3,849百万円

③自己株式処分+1,054百万円、有利子負債+1,807百万円、配当金等の支出△346百万円



1. はじめに（会社概要）

2. 2014年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの状況

5. 2015年3月期業績予想

■事業方針

●エンドユーザー志向

- ・お客様に選ばれ信頼関係を構築
- ・多面的な取引の実現

●ストックビジネスの拡大

- ・継続的な売上／利益の確保
- ・人当たり利益の増加

■当社グループの強み

安全なデータセンターでシステム構築から運用、さらにはBPO業務までお客様に最適なITサービスを**ワンストップ**で提供

システム開発サービス

コンサル
要件定義

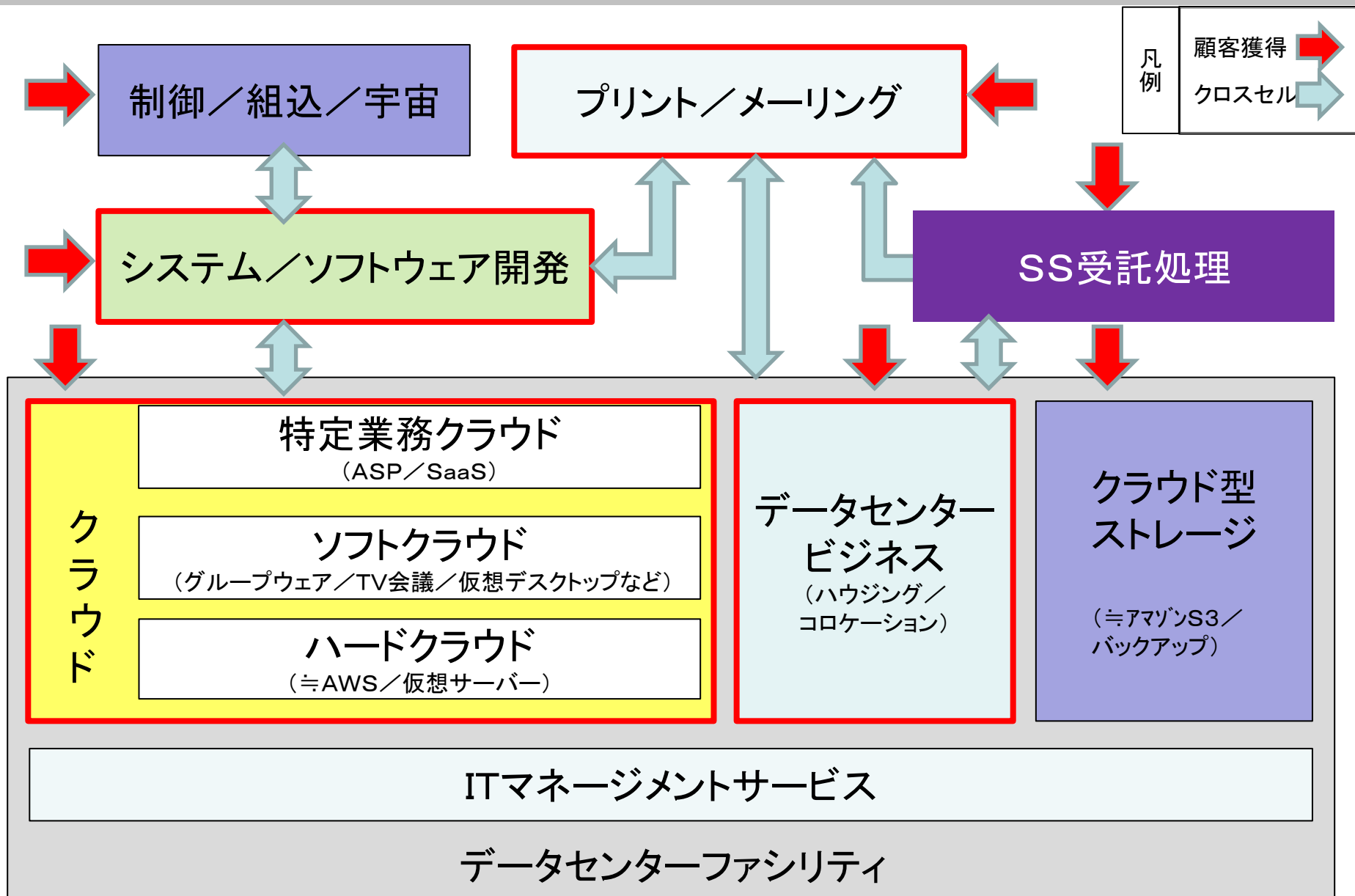
システム
設計構築

情報処理サービス

受託計算
データセンター
クラウドサービス

プリント
封入封緘

inet 当社グループのビジネスモデル



1. 『SS受託計算事業』で利用してきたデータセンターと、蓄積してきたITマネジメントサービスのノウハウを活用する事で『データセンタービジネス』と『クラウドサービス』を開始・展開した。各々の事業基盤の共有・活用により損益分岐点が下がり、双方の事業に価値をもたらす事が可能になる。また、『SS受託計算事業』はより強力なプレイヤーとなり、残存者メリットによる収益ももたらされる。
2. 時流であり集客できる『クラウドサービス・データセンタービジネス』の売上・事業規模拡大を利用して『システム/ソフトウェア開発』の顧客拡大を図ると共に、この逆も推進することにより新規顧客の開拓が容易になると共に、既存顧客の囲い込み・差別化となる。
3. ユーザー企業がIT技術進化スピードに併せて企業経営するにはコストが掛かり過ぎる。また事業に必要なサービスを複数ベンダーに委託する事はセキュリティ問題やマネジメントコストが掛かる。このため、ワンストップでサービス提供する・できる会社の優位性が高まる。
4. 各事業は各々の顧客を開拓すると共に、アップセル、クロスセルを行いワンストップ・サービスを提供する。これにより顧客の利便性が高まると同時に、顧客が他社に乗り換える際のスイッチング・コストが増大し他社の参入障壁となる。その結果、当社の優位性が拡大する。
5. 他データセンター事業者が保有していないプリント・メーリングビジネスを最大限活用し、カード作成、請求書や督促状作成等が必要な金融機関や、紙媒体に依存せざるを得ない自治体、公共団体などにデータセンターとプリント・発送という個人情報保護をキーワードにしたサービスで差別化を図る。
6. フロービジネスはノウハウ獲得やボリュームアップのために必要である。そのフロービジネス顧客をストックビジネスに展開し、人月ビジネスからサービス型への転換を計ると共に、更なる高収益率をあげる。また、上記各々の項を推進するためにも、ノウハウを蓄積するためにも、下請けでなくプライム契約を目指す。



1. はじめに（会社概要）

2. 2014年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの状況

5. 2015年3月期業績予想

■国内IT市場

- 情報システム「2016年問題」
金融・公共など大型案件が集中
- 企業のビッグデータの活用や
クラウド導入への投資が増加
- 世界のデータ量は爆発的に増加
2020年には2013年の10倍に
国内データセンターの面積は微増
2013年～18年(年平均3.5%増)

画像は省略させて
頂いております

■ITトレンド

⇒企業の景況感改善により
IT投資への意識するポイントが「業務コスト削減」から
「売上増大」や「顧客サービス向上」などビジネス指向に変化

ストックビジネスの拡大(高収益/安定成長)

■ データセンタービジネス/クラウドサービス

- データセンター市場拡大を背景に受注拡大中
⇒ 第2データセンターⅡ期棟稼働開始
- 「Dream Cloud®」のラインナップ強化
⇒ ハード系からソフト系まで展開

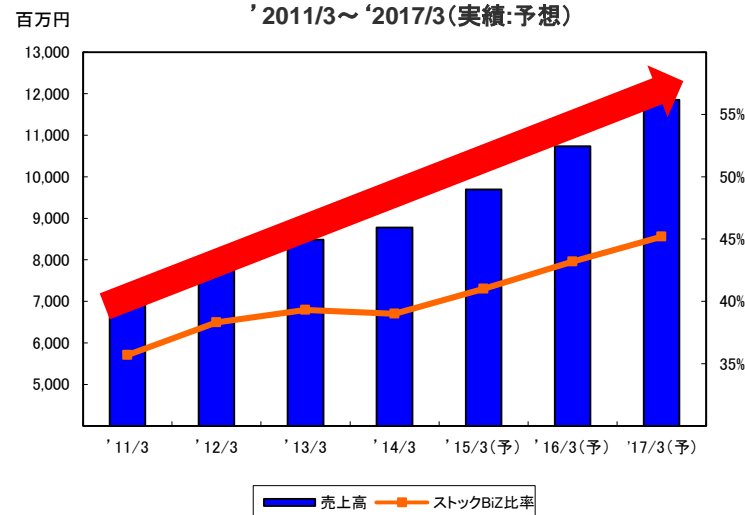
■ SS処理サービス関連 (注)SS=ガソリンスタンドのこと

- 大規模特約店へサービス提供開始(2014.4)
- 債権保証/非対面決済を他業種まで横展開

■ BPO+データセンター/クラウド

- ターゲット⇒自治体の「個人情報」と「紙の発送」の組み合わせ
マイナンバー制度も追い風に

当社ストックビジネス(情報処理サービス)の推移
'2011/3~'2017/3(実績:予想)



エンドユーザ志向(信頼関係構築/多面的営業)

エンドユーザ売上高が4期連続増加

金融業関係

⇒カードローンシステム引き合い堅調

⇒ABCシステムで新規顧客開拓

後方のシステム開発⇒DC・クラウドも狙う

製造業・流通業関係

⇒景況感改善でIT投資再開

自動車・ハウスメーカー・小売流通で案件増加基調

制御/防衛/宇宙分野

⇒医療、防衛関連が前期に引き続き堅調

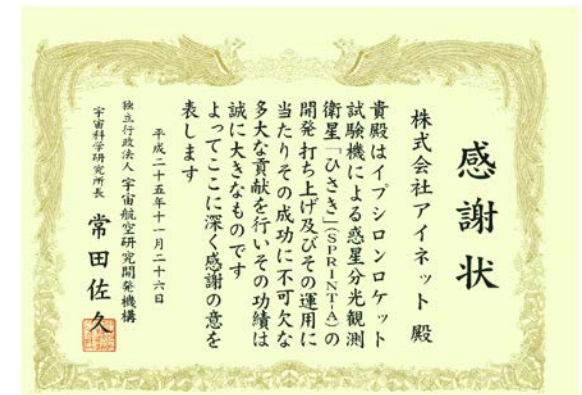
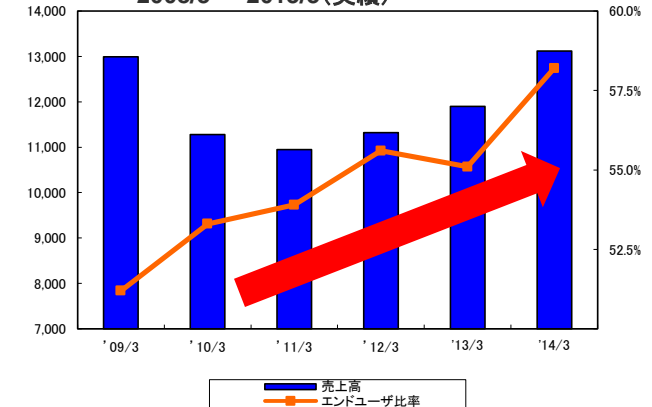
⇒2014年度は過去最多の衛星打上げ予定















宇宙は5/24打上げ予定の「だいち2」

をはじめ「ひまわり8号」「はやぶさ2」

など設計検査・運用など受注中

百万円 当社エンドユーザ売上推移(全サービス)
'2008/3~'2013/3(実績)



	2014年3月期 (前期)		2015年3月期 (今期)	
	業界の景況感	当社の景況感	業界の景況感	当社の景況感
石油業 販売店含む				
金融業 その他金融業				
製造業 制御・宇宙				
データセンター サービス				
クラウド サービス				



1. はじめに（会社概要）

2. 2014年3月期業績概要

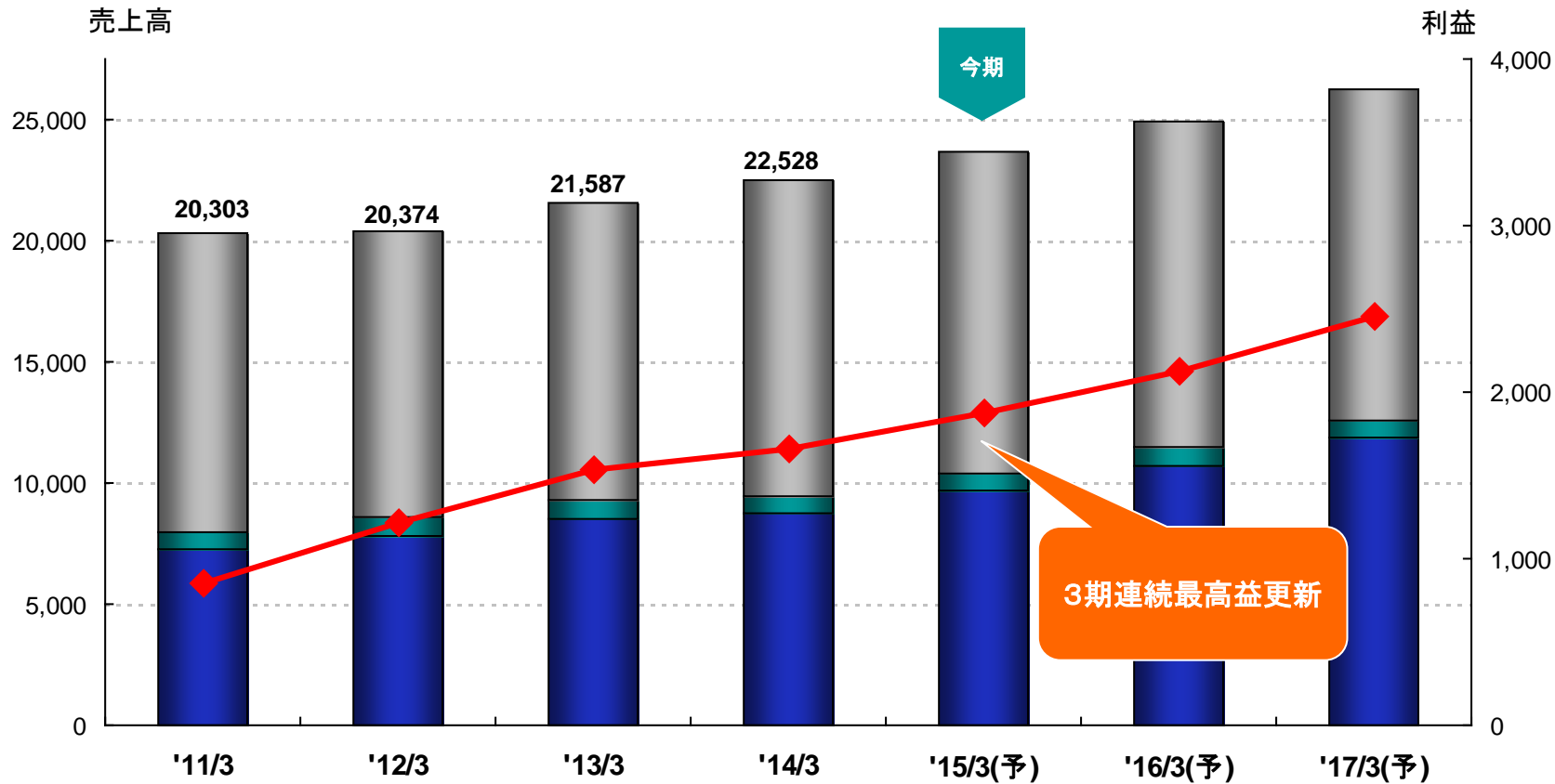
3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの状況

5. 2015年3月期業績予想

■ 情報処理サービス
 ■ 機器販売
 ■ システム開発
 ◆ 営業利益

(単位:百万円)

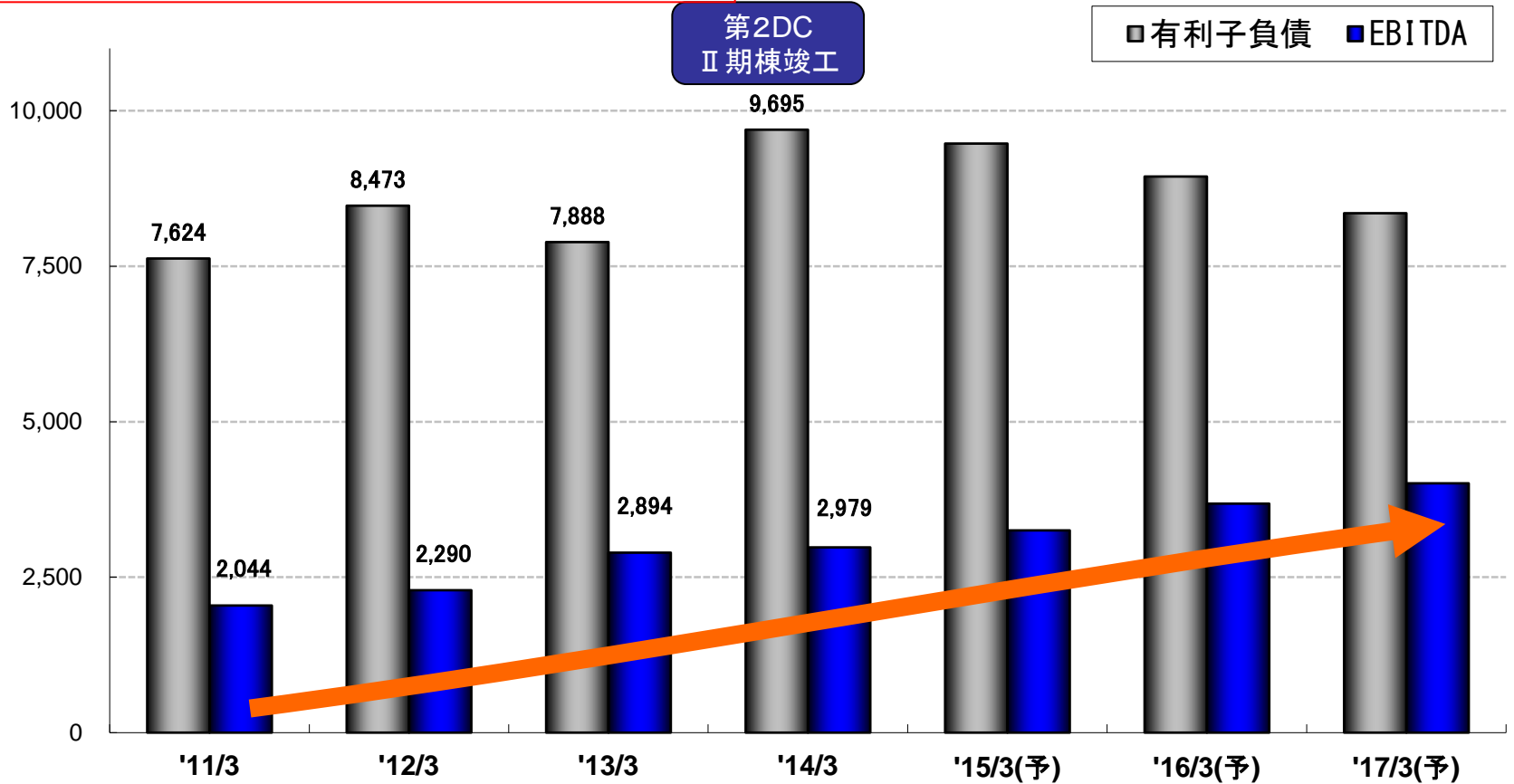


	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3(予)	'16/3(予)	'16/3(予)
ストックBiz売上高	7,252	7,802	8,487	8,783	9,700		
ストックBiz構成比	35.7%	38.3%	39.3%	39.0%	41.0%		

inet 中期財務イメージ(連結)有利子負債とEBITDAの推移

EBITDA=経常利益+支払利息+減価償却費他非資金項目

(単位:百万円)



	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3(予)	'16/3(予)	'16/3(予)
設備投資額	764	1,931	1,371	3,848	1,400		

（単位：百万円・％）

	2014年3月期		2015年3月期		前期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	22,528	100.0	23,650	100.0	+1,122
売上原価	17,117	76.0	17,850	75.5	+733
売上総利益	5,411	24.0	5,800	24.5	+389
販管費	3,747	16.6	3,920	16.6	+173
営業利益	1,664	7.4	1,880	7.9	+216
経常利益	1,561	6.9	1,760	7.4	+199
当期純利益	901	4.0	1,050	4.4	+149
1株当たり利益(円)	63.7	—	71.2	—	+7.5

前期に引き続き過去最高の営業利益を更新、経常利益も過去最高益を更新

inet サービス区分別 売上・営業利益予想(連結)

(単位:百万円)

	2014年3月期		2015年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報処理サービス	8,783	806	9,700	946	① +917	+140
(営業利益率)		9.2%	—	9.8%		
システム開発サービス	13,063	820	13,260	906	② +196	+86
(営業利益率)		6.3%	—	6.8%		
システム機器販売	681	38	690	27	+9	△10
(営業利益率)		5.6%	—	4.0%		
合計	22,528	1,664	23,650	1,880	+1,122	+216
(営業利益率)	—	7.4%	—	7.9%	—	+0.6%

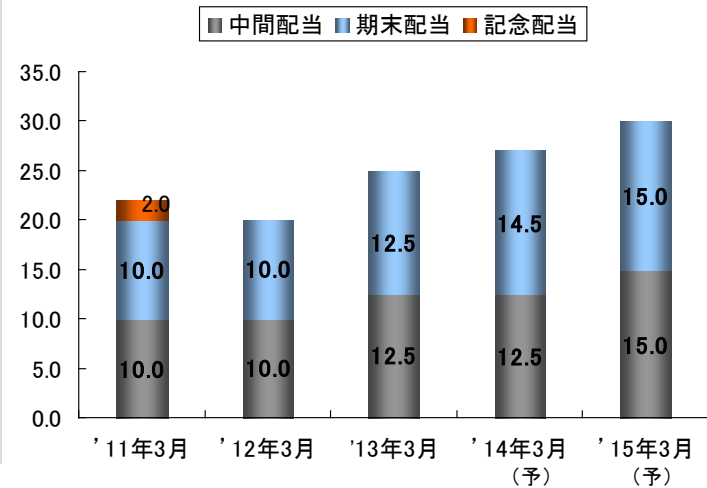
①クラウドサービス等の増加により、データセンター稼働率向上、増収増益

②システム需要は2014年も継続、増収増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

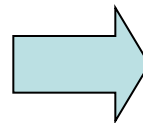
《配当方針》

将来の資金需要に備え
内部留保しつつ
安定配当を継続実施



1株当たり年間配当金の計画

2014年3月期(予定)
27.00円
中間(12.50円)
期末(14.50円)



2015年3月期(予定)
30.00円
中間(15.00円)
期末(15.00円)

本日はご多用中にもかかわらず
説明会にお越しいただき誠に
ありがとうございました。



当資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合がありますことを、予めご承知頂きますようお願い申し上げます。

当資料に掲載されているサービスおよび商品などは、株式会社アイネットあるいは各社の登録商標または商標です。

お問い合わせは、下記連絡先までお願い致します。

企画本部 経営企画・IR部 伊藤、杉岡

TEL 045-682-0808

E-Mail infoir@inet.co.jp

URL <http://www.inet.co.jp>